



宮城の 頼れる弁護士

たか だ ひで のり
高田 英典

(弁護士法人リーガルプロフェッション)



本当に依頼者の方の真意に基づく
納得できる解決を導き出したい

「弁護士を目指されたきっかけを
お話しいただけますか。」

中学生の時に見た映画「12人の怒れる男」。これは陪審員のお話なのですが、そこから裁判に興味を持ちました。「評決」「アラバマ物語」などの不条理に立ち向かう主人公に憧れを感じたのですが、その時には本当にこの道に進むことになるとは思っていませんでした。普通の人が陥ってしまう不条理を正したい、その思いはあの頃のままです。

「どのような事件を多く手がけて
いらっしゃいますか？」

交通事故で後遺障害が問題となる事件では、外傷などについての医療知識を勉強し、MRIの読影などもして、専門医につなげることであるべき解決を図れるようにしています。中小企業の法務や倒産・民事再生の業務なども行っています。また消費者問題については、いかに被害者救済を図っていくかに力を注いできました。もともと何でも手がけていきたいという気持ちは強かったのですが、最近では自分一人ですべてをこなそ

うとするのではなく、自分の持っていない専門分野の知識や経験のある弁護士と協働することにより、より一層依頼者の方のお役に立てるような事務所づくりをするよう努めています。

「お仕事のうえで印象的なエピソードなどあったらお聞かせください。」

調停を申し立てられたお客様で、調停そのものは満足な結果ではなかったのですが、陳述書を作る過程の聞き取りで前向きになられた方がいらっしゃいました。弁護士としての技術が大事なのは当然ですが、そのこと以来相談者の真意を汲み取るようなお話ができることも重要だと感じるようになりました。本当に依頼者の方が納得する解決へと進んでいくことが大切ですから。

「りらく読者の皆さんに一言お願
いします。」

一度お話に来ていただければ、決して敷居は高くないとわかっていただけると思います。必ずご参考になるお話をさせていただけると思います。